

2019年1月号

1月15日(火)発行

釧路湿原国立公園

温根内ビジターセンター

# 月刊 温根内通信 No. 268



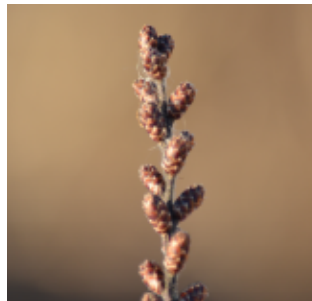
## 雪はこれから？…

あけましておめでとうございます。2019年が始まりました。  
釧路地方は昨年末からほとんど雪がなく、すっきりと晴れた好天が続いています。ミスゴケ湿原で朝日が昇るのを待っていると、息をのむ光景が広がります。それでも寒さはとても厳しく、鳥たちはカメラを向けるこちらにお構いなしに餌を探し回っていました。

☆☆☆温根内ビジターセンター 探勝木道周辺の自然情報☆☆☆



～温根内探勝木道周辺の自然～



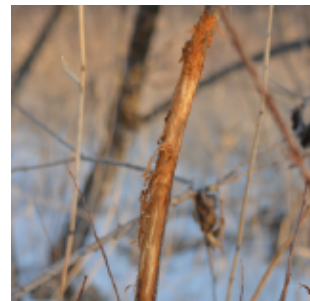
【ヤチヤナギ (冬芽)】  
ヤマモモ科 谷地柳  
ミズゴケ湿原などで見られ、この状態で厳しい冬をじっと耐えます。春先に目立たない花を咲かせ、花粉を飛ばします。



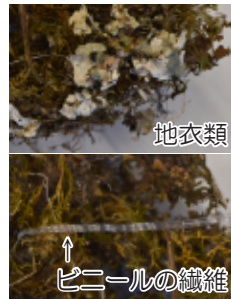
【クサソテツ】  
コウヤワラビ科 草蘇鉄  
鶴居軌道沿いの地面に枯れた葉が残っています。シダ植物はエゾシカなどが好んで食べないので、あちこちで見られます。



【エゾユキウサギの食痕】  
ウサギ科 蝦夷雪兎  
地面に落ちたヤナギの樹皮を食べた痕跡がありました。上下の歯でかじるように食べます。姿は滅多に見ることができません。



【エゾシカの食痕】  
シカ科 蝦夷鹿  
エゾシカも樹皮を食べます。シカの前歯は下の歯だけが生えており、下の歯と上あごを使ってこそげ取るように樹皮を食べます。



【エナガの巣】 エナガ科 柄長  
エナガの古い巣が落ちていました。エナガはおもにコケ類や地衣類といったものを巣材として、樹木の枝分かかれしている所などに巣を作ります。巣の材料を詳しく見てみると、地衣類などのほかにエゾシカと思われる獣の体毛や、繊維状のビニールの人工物まで用いていました。こういった理由で地面に落ちたのかは不明ですが、間近で鳥の巣を観察できる貴重な機会となりました。

## ～温根内探勝木道周辺の野鳥～

温根内周辺は雪が少ない状態が続いています。いつもより冬鳥の確認種数は少ないものの、オオワシなどの大型のワシが見られる時もあります。上空や樹木の上に注意して歩いてみてください。また、ハンノキ林や鶴居軌道沿いの森には、餌を探して飛び回る留鳥の姿が頻繁に見られます。ビジターセンターでは双眼鏡を無料で貸出しております。お気軽に職員までお申し付けください。



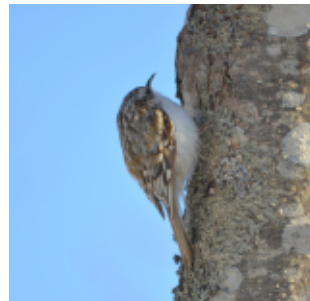
【オオワシ】 冬鳥  
タカ科 大鷲  
上空高くを旋回していたり、丘陵地の樹上に止まっていたりします。翼を広げると2mを超え、飛び姿はいつ見ても圧巻です。



【ゴジュウカラ】 留鳥  
ゴジュウカラ科 五十雀  
他の留鳥と行動をともにしています。過眼線と呼ばれる黒いアイラインが特徴です。樹皮の裏に隠れた昆虫などを探しています。



【ヒヨドリ】 留鳥  
ヒヨドリ科 鶇  
温根内では1年を通して見られ、群れで行動しています。よく鳴声は聞かれますが、姿を捉えるのは意外に難しい鳥です。



【キバシリ】 留鳥  
キバシリ科 木走  
その名の通り木の上を走るように移動しています。「シリリ…」という高い声が聞こえたら周りの木を探してみましょう。

○温根内探勝木道周辺で観察された鳥（12月15日～1月14日）和名は日本鳥類目録第7版の順

■オオハクチョウ■タンチョウ■トビ■オジロワシ■オオワシ■ノスリ■コゲラ■アカゲラ■ヤマゲラ■モズ■カケス■ハシボソガラス■ハシブトガラス■ハシブトガラ■ヒガラ■シジュウカラ■ヒヨドリ■エナガ■ゴジュウカラ■キバシリ■ツグミ■セグロセキレイ■シメ

※旬の自然情報についてはお気軽にスタッフまでお尋ねください。

※温根内木道周辺の植物を折ったり持ち帰ったりしないようお願いします。また、木道から降りて写真を撮ることはおやめください。皆様が気持ちよく散策・観察できるようご理解とご協力をお願いします。

## ☆☆☆☆ 自然ふれあい行事が開催されました ☆☆☆☆

◎「**湿原アニマルトラッキング**」1月13日 参加者：11名

雪上や樹木に動物たちが残した痕跡をたどりながらその生態を探る、アニマルトラッキングを行いました。まず講師の貞國氏（釧路市立博物館）から、痕跡の見つけ方や動物ごとの特徴について手ほどきを受け、ビジターセンターを出発しました。まず出発してすぐに、エゾユキウサギの足跡を見つけました。前足・後足の仕組みやどちらの方向に進んでいたかなど、参加者で議論しました。さらに進んでいくと、エゾシカの足跡や、ネズミ類の体毛が含まれているキタキツネの糞と思われるものを

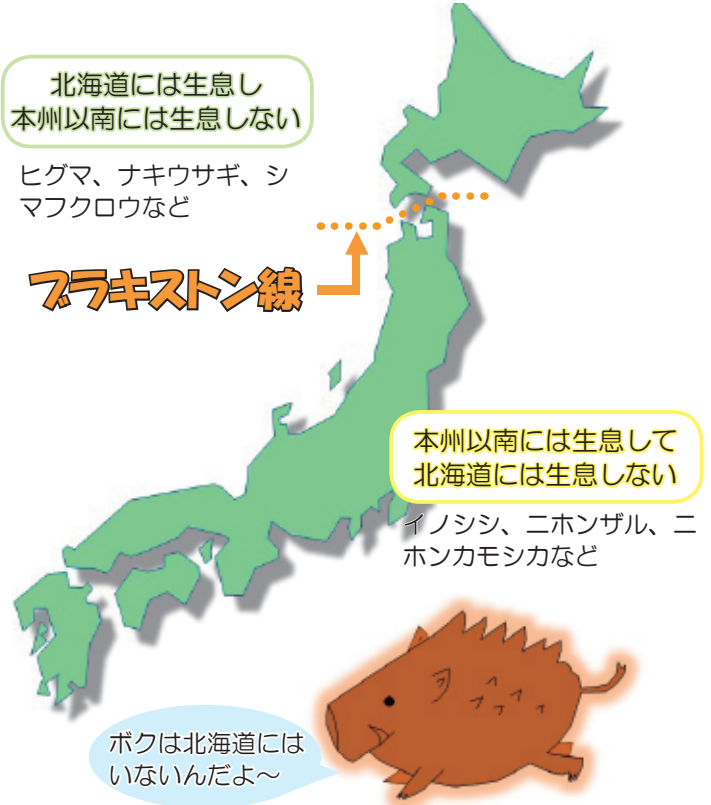


キタキツネの糞？

を発見しました。また途中には、エナガの古巣が落ちており、詳しく調べてみるとエゾシカの体毛やビニール質の人工物が含まれていることに参加者は衝撃を受けていました。（貞國氏によると、エナガはその場その場にある手ごろなものを巣材に選んでおり、場所によってはイヌの体毛などが含まれていることもあるそうです。）短い距離でも様々な発見があり、これからの冬の雪原に参加者が一層の楽しみを加えることのできたアニマルトラッキングとなりました。

☆☆☆☆ コラム **えと** 千支にまつわるエトセトラ ☆☆☆☆

今年は亥年（いとし・いのししどし）ですね。さて、突然ですがクイズです。北海道に野生のイノシシはいますか？いませんか？ 答えは「いません」。国内のイノシシは、おもに関東から西日本にかけての山あいに生息していて、北海道には本来生息していない動物です。このイノシシのように、「本州から南にはいるけど、北海道にはいない」動物はたくさん挙げられます。千支で言えば、申（サル）つまりニホンザルもそうですね。では逆に、「北海道にはいるけど本州にはいない」動物ってわかりますか？これも実はたくさんいます。例えば、シマフクロウやヒグマがそうですね。このように、北海道と本州以南つまり津軽海峡を境にして、生息する動物はかなり異なっています。この動物相の境界を、「ブラキストン線」と呼びます。この呼び名は、この境界を主張したイギリス人の鳥類研究家トーマス・ブレイキストン（Thomas Blakiston）にちなんで名づけられました。なお、シマフクロウの英名（Blakiston's Fish Owl）にも彼の名前が用いられています。今回挙げた例のほかに、このブラキストン線で区切られる動物や植物を探ってみると、おもしろい発見があるかもしれませんよ！



☆☆☆☆☆イベントのご案内（2月）☆☆☆☆☆

○温根内ビジターセンター ⇒お申し込み☎ 0154-65-2323

♪歩くスキーで湿原ハイク

〔日時〕2月10日（日）10：00～12：00 〔定員〕15名（小学生は保護者同伴）  
〔参加費〕無料（スキーのレンタルも無料です） 〔場所〕温根内ビジターセンター  
雪の積もった湿原と周辺の森を歩くスキーで巡り、冬ならではの湿原を楽しみましょう。

○塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）⇒お申し込み☎ 015-487-3003

♪釧路湿原フィールドウォッチング

〔日時〕2月9日（土）10：00～12：00 〔定員〕15名（小学生は保護者同伴）  
〔参加費〕無料 〔集合場所〕憩の家茅沼駐車場

～今年も宜しくお願いします～

今年も温根内ビジターセンターをよろしくお祈いします。楽しい発見・出会いのある1年にしたいですね！



体が冷えたら薪ストーブで温まっていきましょう

.....  
月刊 温根内通信 No.268

発行：釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター

〒085-1145 北海道阿寒郡鶴居村字温根内

Tel：0154-65-2323 Fax：0154-65-2185

E-mail：ovc@hokkai.or.jp

ホームページ：http://www.kushiro-shitsugen-np.jp/

**Facebook**：温根内ビジターセンター フェイスブック

開館時間：9：00～16：00（4月～10月は17：00まで）

休館日：毎週火曜日（12/29～1/3は休館） 入館無料  
.....